

神戸市環境マスタープラン重点施策に関する外部評価員意見と本市の対応

項目	外部評価員意見	本市の対応
【重点施策 1】 低炭素社会の実現に資するエネルギー施策の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・評価方法の工夫が必要（電力の排出係数低減効果と市域の省エネ等導入効果の切分け、KPI・施策の貢献度合いで評価、世帯あたりの省エネ・再エネの導入割合の政令市間比較等）。評価方法を工夫することで、継続的な活動のPRや参加者の動機づけになる。 ・2050年二酸化炭素排出実質ゼロを実現するため、これまでとは次元の異なる対応が求められると予想される。新型コロナウイルスの影響をふまえつつ、革新的な新技術の展示会・相談会の開催や、水素利用社会の「見える化」など、様々な積極的な取組みを期待する 	<ul style="list-style-type: none"> ・現在進めている神戸市地球温暖化防止実行計画の改定に際し、国が示す実行計画策定マニュアル等を参考に、事業評価や広報啓発に資する有効な定量評価方法を検討していきます。 ・2020年に二酸化炭素排出実質ゼロを表明し、順次取組みを進めています。新たな取組み例として、環境局公式アプリ「イイことぐるぐる」を活用して、市民が日々の生活の中で排出する二酸化炭素を分かりやすく表示する「見える化メニュー」を、2021年内に実装をめざし取組みを進めているところです。また、市民への分かりやすい情報提供にも努めていきます。
【重点施策 2】 都市の特徴を活かした木質バイオマスの利用	<ul style="list-style-type: none"> ・神戸市全体の賦存量、需要量、供給量、事業規模、二酸化炭素削減効果、コストなどを整理し、C評価であることをふまえ、課題を明確にしたうえで、取組みを進めて欲しい ・しあわせの村をどうするのか、大井埠頭中央海浜公園の事例や、カーボンニュートラルの取組みとの連携も踏まえて検討してはどうか ・モウソウ竹林の拡大も問題になっている。竹材の利用も検討して欲しい 	<ul style="list-style-type: none"> ・2016年度に実施した木質バイオマスエネルギー活用ポテンシャル調査では本市の賦存量は約5,700～6,400t/年でしたが、採算性（運搬や設備投資費用等）がネックとなり活用が進んでいないためC評価（停滞している）としています。木質バイオマス発電を検討しましたが、発電事業の採算ラインと言われる5MW級で年間50,000～60,000tを確保することが困難な状況です。現在、市内で発生する剪定枝はチップ化等でリサイクルされるものを除き、クリーンセンターで焼却・発電し、バイオマス由来電力として有効活用しています。また、里山放置林の整備で発生した伐採木を活用したCO2の固定化事業（森のCCS）等の新たな取組みの検討を行っています。 ・しあわせの村を活用した取組みは、村のリニューアル計画の具体化にあわせて、東京都大井埠頭中央海浜公園の事例やカーボンニュートラルの取組みとの連携等も踏まえつつ検討していきます。 ・竹の利用は採算性を考慮しつつ調査を検討します。
【重点施策 3】 食品ロスの削減	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍の課題を分析し、生活困窮者等を支援するため、フードバンク活動への支援充実や災害備蓄品の提供など現在の取組みの軌道修正が必要なものはないか等の検討をしてはどうか ・学校教育や事業者と連携し有効な広報・啓発に取り組んでどうか（手前どりの一層の周知、民間のフードシェアリングサービスの情報提供、様々な課題（感染症対策・ワンウェイプラスチック削減対策等）と一緒に効果的に周知するような取組みを支援） ・小売業、飲食業など事業系フードロスの対策はまだ取組み余地があると思う。SDGsとの関連、物流や小売の商習慣、コロナ禍の影響など社会システム全体に目配りしながら検討してはどうか 	<ul style="list-style-type: none"> ・現在実施しているフードバンク団体への補助や、災害備蓄食品の活用策（フードパントリーへの配布等）など本市の食品ロス削減の取組みについては、コロナ禍の状況も踏まえながら、効果的な実施に努めます。 ・学校教育や事業者と連携して、効果的な広報・啓発に取組みます。 ・事業者や一般廃棄物収集運搬許可業者より、新型コロナウイルス感染症の影響を受け、事業系の食品ロスの状況が変化していると同っています。事業活動は消費者の行動に大きく左右されるため、事業系食品ロス削減を進めるためには、いかに消費者・製造者・販売者等が共通意識を持てるかが重要だと認識しています。引続き情報収集に努めるとともに、様々な視点からあり方を検討し、食品ロス削減協力店制度や民間のフードシェアリングサービスの広報・啓発等を行いながら取組みます。
【重点施策 5】 市民と取り組むアカミミガメの防除作戦	<ul style="list-style-type: none"> ・条例で販売禁止にできないか ・アカミミガメの除去した後、生態系が回復したかどうか検証を行ってはどうか ・アカミミガメの防除をきっかけにして流域全体の健全化を図る仕組みを構築してはどうか 	<ul style="list-style-type: none"> ・現在、市内のペットショップからの条例に基づくアカミミガメ販売時の届出は無く、店内での販売を確認していないことから、販売による流通は皆無に近い状態だと認識しています。また、条例ではアカミミガメを野外に放つことを禁止しており、既に飼育されているペットが野外に遺棄されることがないように、引続き啓発・指導を徹底していきます。 ・アカミミガメ防除による在来の生態系の回復については、明石・神戸アカミミガメ対策協議会で、生息が競合しているニホンイシガメの生息状況の改善効果について調査していきます。 ・アカミミガメ防除の助成金の広報に努めるとともに、流域の生物多様性の保全に資するよう、アカミミガメ防除活動をきっかけにして、外来種による生態系の影響など生物多様性保全への理解が深まるように啓発に取組みます。
【重点施策 6】 土地所有者・活動団体・大学等の連携による希少植物オカオグルマ等の保全	<ul style="list-style-type: none"> ・田園都市づくりはこれからのキーワード。その文脈で生物多様性は環境として必須。神戸のような都市と農村が共存している大都市は、この特徴を活かしていく必要があると認識。オカオグルマの保全を通して、都市との共存、住環境の高度化にもつなげ、これらの活動が次の世代に引き継がれるよう願う ・希少種の保全活動が特定の人の負担にならないよう参加者を増やす取組みに期待する 	<ul style="list-style-type: none"> ・神戸の生物多様性を保全する観点から、希少植物であるオカオグルマが生育する棚田といった多様な生物が生息・生育する里地里山環境の保全に取組んでいきます。また、自然豊かな里地里山が都市近郊に広がっていることを知ってもらえるよう普及啓発に取組んでいきます。 ・里地里山環境の保全活動に学生等の若い人などの関心を高め、保全活動への参加に繋がるような取組みを行っていきます。
【重点施策 7】 光化学オキシダント、微小粒子状物質（PM2.5）への対策	<ul style="list-style-type: none"> ・自世代自動車導入助成は市単独でも容易に実行可能だが、限られた台数に対する補助でどれだけ効果があるのか。インフラ整備や優先レーン割り当てなど新たな視点が必要ではないか。 ・EV等の普及に蓄電機能を活用した神戸モデルを考えているなら重点施策 1 とも連携させた取組みの進展を期待する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・電気自動車（EV）の普及には、公共用インフラとして急速充電器の整備も必要不可欠であると考えています。そのため、今後も次世代自動車の導入助成制度の検証と併せて、次世代自動車の導入を進めやすくなる施策を検討して参ります。 ・ご指摘のとおり施策 1 と連携させ、今後も公用車への電動車の導入、外部給電・神戸モデルの啓発などを通じた普及を進めて参ります。